

## 平成27年度 第2回 地域公共交通会議議事録

日時：平成28年1月25日（月） 午後1時30分～午後2時15分

場所：有田市役所4階 市長応接会議室

（出席委員） 成川満、廣瀬洋一、平田克也（代理：神山）、鈴木孝志、田中 守、  
中川義朗、橋爪嘉郎、高垣太郎、森下清司、田村政博、  
永田和之（代理：太田）、今津太志（代理：加藤）

（欠席委員） 北村修、高瀬秀彰、西村芳通、鹿嶋久義

（出席事務局職員） 辻川経営管理部長、嶋田経営管理部理事、大松経営企画課長、  
石井まちづくり係長、馬場まちづくり係主事

### （議 事）

議案第3号 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

議案第4号 平成28年度事業計画（案）の承認について

議案第5号 平成28年度予算（案）の承認について

### 1. 開会（事務局）

ただいまより、平成27年度第2回有田市地域公共交通会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は過半数以上の委員さんの出席をいただいておりますので、本会議設置要綱第5条第2項により本会が成立いたしましたことをご報告申し上げます。

それでは、まず始めに成川会長よりご挨拶よろしくお願ひいたします。

### 2. 会長挨拶

皆さん、どうもこんにちは。

本日は大変お忙しい中、また大寒波の中、地域公共交通会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。有田市デマンドバスの運行につきましては、委員の皆様方にご協議ご検討いただきまして、地域の公共交通として重要な役割を果たしているところで

す。デマンドバスにつきましては、平成23年度から「地域公共交通確保維持改善事業」として運行を実施しているところですが、本日はこの国庫補助事業における自己評価につきまして、ご協議をお願いしたい次第でございます。

また、今年度につきまして、あとわずかとなりましたので、平成28年度事業計画（案）及び予算（案）も含め、今後の当会議の運営や地域公共交通機関のあり方などについて、活発にご協議していただきたいと思います。委員の皆様には、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。本日はご苦勞様でございます。

### 3. （事務局）

ありがとうございます。それでは、本会議設置要綱に基づき会長に議長をお願いし、議事に移らせていただきます。成川議長よろしくお願ひいたします。

#### 4. 議事 (成川議長)

それでは早速ですが、議事に移らせていただきます。

本日の議事は、議案3件でございます。それでは、議案第3号「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について」を事務局より説明願います。

#### (事務局説明)

議案第3号「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について」ですが、まず始めに「地域公共交通確保維持改善事業」についてご説明させていただきます。この事業は、多様な関係者の連携により、地域公共交通の確保・維持を図るとともに、地域公共交通の改善に向けた取組を支援いただけるものです。有田市デマンドバスにつきましても、毎年、生活交通確保維持改善計画に基づきまして、運行に係る経費を対象に一定の補助を継続的に行っていただいております。平成28年度事業につきましても、前回の会議でご承認いただきました生活交通確保維持改善計画を平成27年9月29日付けで認定いただき、申請通りの補助額9,118千円の内定をいただいております。また、毎年度の補助事業終了後には、実施した事業の内容を振り返って、目標の達成状況などを評価・分析し、次年度の取組につなげていかなければならないとされています。まず、一次評価ということで、協議会自らが評価を行います。その評価結果を国に報告し、二次評価を受けるという流れになっています。事業年度は通常一般的な年度とは異なり、10月から9月になりますので、今回評価を行う平成27年度事業は、平成26年10月から平成27年9月までの分となります。以上の内容をうけて議案第3号の説明に移ります。

資料1頁「地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）」をご覧ください。まず、1頁目ですが、前回の評価結果の反映状況ということで表の③をご覧ください。前回の評価結果では、ダイヤ改正の周知不足による乗客数の減少が見られたため、市内各所に時刻表を配布し、利用促進につながるよう努めたとともに、利用客のニーズ把握を行うため、アンケート調査を実施したとしました。また、④の事業実施の適切性については、計画どおり適切に実施されたと考えておりますので、評価をAとしております。⑤の目標・効果達成状況ですが、まず、上段のAコースについては、公共交通空白地域を解消し、安定してサービスを提供するという目標を達成したものの、利用人員については、前年度よりも減少したため、評価をBとしています。下段のBコースにつきましても、利用人員が前年度よりも増加したため、評価をAとしています。利用人員については、資料の4頁をご覧ください。26年度10月から27年9月の乗車人数を載せております。また、下の方には、乗車人数の対前年度比率を載せております。

1頁にお戻りください。⑥の今後の改善点としましては、路線の周知徹底をこれまで以上に行うとともに、アンケート調査の結果も参考にしながら、利用者ニーズの把握に努めていきます。

次に2頁をお開きください。ここでは、地域の交通の目指す姿ということで、本市の公共交通機関の現状及び交通弱者である高齢者数が増加傾向であることを踏まえ、事業実施の目的と必要性を記載しております。

3頁をお開きください。取組・評価概要のわかるポンチ絵になっています。今まで説明してきたことをわかりやすくまとめたものです。目標に対する取り組み、それに対する評

価、評価から得られた課題を記載するとともに、アピールポイントとして、車体のペインティングや高齢者運転免許証返納者への割引制度、回数券の販売を挙げております。議案第3号の説明は以上です。

(成川議長)

ただいま説明のありました議案につきまして、ご意見、ご質問をよろしく願いいたします。

(廣瀬委員)

⑤目標・効果達成状況にあります、Aコースについては22%減少、Bコースについては11%増加したとあるのですが、この増えた、減ったの原因というのはどういうところにあるのでしょうか。

(事務局)

これはコースの持つ特性でもあるかと思うのですが、Bコースにつきましては、高齢者の利用が多い病院やスーパーを経由する系統になっておりまして、そういったところで乗車人員がある程度増えたというような状況で、一方、減っている方のコースにつきましては、河北の方のコース設定になっておりまして、初島・箕島・宮原というかたちで3駅が位置しております。そういったところも影響したのかなという風に分析しております。

(成川議長)

もともと、利用人数も南、病院を含んだコースの方が多いのですね。

(事務局)

あともう1点補足をさせていただきます。4ページの方をご覧ください。このデマンドバスにつきましては、平成26年5月よりダイヤ改正をしまして、路線自体が少し変わったという風なところがあります。今回の評価につきましては、25年の10月から26年9月の1年間と、26年10月から27年9月、この両年を比較して増減というのを評価結果として表してございますけれども、現実に今のダイヤ改正になったのが、26年5月以降ですので、4ページの参考の下の部分ですね、5月～9月というところであると、そこまでも減っていないという状況になっております。以前の路線が変わったのでというところですね。対前年度乗車率につきましては、あわせて94.2%、これでも減ってはいるのですが、少しダイヤ改正の影響がこちらの増減には影響しているという状況です。

(廣瀬委員)

減ったところのAコースなんですけど、駅の接続とかといった話なのですが、これはどちらかというと旅行者であったり、ビジネスで利用されてる方の割合が高いというようなことなのではないでしょうか。

(事務局)

基本的にデマンドバスを利用される乗客の方というのは、やはり高齢の方が多く、マ

イカーなどの運転ができない方と認識をしております。その関係上、病院ルートや日常の買い物、そういった視点で利用される方が多いという風にとらえております。そういった面で、病院が比較的多いBコースがこのようなかたちで維持できたというような理解をしています。鉄道を利用して市外へ行くための用途というのはあまりないのかなという認識です。

(成川議長)

Aコースがものすごい減っていますね。

(事務局)

ダイヤ改正前のAコースというのが、市内を全体を8の字型に巡回していたコースでした。それが、5月から全く別のルートとなっています。なので、もともとAコースで乗車されていた方が現時点でのBコースの方に流れていった人もおそらくいるので、数字で見るとAコースの減りが大きく、Bコースが増えているので、そういった部分もあるのかなというところなんです。ですので、来年度、28年度の評価での減少率というのは、ここまでいかないかなというところなんです。今回の評価で比較する前年度の数字が、ダイヤ改正前と後の分が混在しているため、そのような数字になってしまったのかなというところなんです。

(成川議長)

全体的にはどれくらい減っているのですか。

(事務局)

全体では約6%です。

(成川議長)

中身で、コース変更で偏ったりするということですね。

(事務局)

そうですね。

(今津委員代理)

すみません、よろしいですか。警察サイドからすると、さきほど事務局がおっしゃられたように、高齢者の方の利用が非常に多いというのも分かりますし、警察の狙いとしては、今、高齢者の方で重大な交通事故を起こすと、全国的にも注目される事故となるのですが、そういうのが有田市内においても、散見されます。そういう方には是非、自主返納ということを勧めております。昨年年間実績でいうと、有田市内で80の方が自主返納してくれています。有田市内の65歳以上の方で免許保有者数は約5千人、その内の80人ということになります。これからですね、ますます高齢化社会が進んでいくので、この自主返納というのを促進する上で、このデマンドバスというのは非常にありがたい存在です。ですから、その方の用途を分析してみますと、やはり買い物であるとか、病院ですね、こちらでいうと桜ヶ丘病院や市立病院、そういう利用に使いたいから、まだ車を離せないという方が中にいらっしゃいます。ですので、もしご要望を聞いていただければ、その路線につきましては、比較的病院であると

か買い物できる場所を優先していただけると、自主返納の窓口をする者にとりましては、その時に勧めやすいですし、今現にですねデマンドバスは運賃200円のところを自主返納をして経歴証明書を見せていただくと半額になるので、窓口でも大変喜んでくれる方がいらっしゃいますので、是非ともその点は考慮していただけたらなと思います。以上です。

(成川会長)

ありがとうございます。これからもっと増えていきますからね。

(今津委員代理)

そうですね。今有田市内で、2万9千人くらいですかね。その内、2万人ちょっとが免許保有者数となっています。高齢化社会がどんどん進むにつれて当然、その比率が上がってくるということになります。事故の方も、和歌山県としてもそういうのが目立っていますので。お願いします。

(成川会長)

デマンドバスは、聞いたことはあるけれども、あまりよく知らない。乗った人は、これは自分にとって便利だとリピーターになる可能性もあるんだけれども。やはりこういう制度があって結構便利だということをPRすることと、ご協力いただけたら免許証返納に来た時に時刻表とかを置いておいて、こんなことをやっていますよと、色々な機会を通じて知ってもらおう。それで利用してもらってリピーターになってもらう。そんな取り組みも今後より一層やっていかないといけないですね。

(森下委員)

すみません、敢えての質問なのですが。高齢者割引というのは特にしていないのですよね。

(事務局)

高齢者割引は行っていません。

(森下委員)

今、警察さんの方から免許証の返納者に対しての割引というのをしている。今社会的な問題になっているという中で、敢えて言わせてもらいますと、やはりバス事業でありますと、運賃の割引というのはバス会社にとってもものすごい大きなダメージでして、一方で警察さんサイドでそういったことを協力するというのはいいのですが、やはりバス事業を運営していく中では非常に問題が大きくて。割引を、運転免許証を持っている人と持っていない人の区別をどうするかという話が色々ございまして。あの人は持っているから割引してくれる、私は持っていないから割引をされないということがやはりありまして。全国的に一律でこういったかたちで動いていないというのがバス業界の実情なんです。今日みえられている中紀バスさんは、積極的にこれを推進していただけています。しかし、県内でそういったかたちというのはまだまだできておりません。ご参考までに、バス事業の実情ということだけお知らせさせていただきたいと思います。こういうかたちでコミュニティバスに導入していくのであれば、高齢者割引というのを一律に割引できるような仕組みづくりというのを考えていただけたらありがたいです。

(成川議長)

ありがとうございます。とにかくバスの運行の経費も要るし、かたやそういう奨励もしなければいけない。またその安全確保の為に免許証の返納も高齢者の方には推進していかねばいけない。色々取り合わせの難しいところなんですけれども、色々なご意見を伺って運用を考えていきます。他にございませんか。

(田中委員)

いいですか。PRの方法は具体的にどういう風に考えていますか。

(事務局)

PRについては、平成20年度から始めさせていただいている事業のため、ある程度は住民の皆さんにはデマンドバスというものが市内を巡回しているということは認知いただいていると思っております。あとはそのバスがどのくらいの頻度で走っているのか、あるいは本当に自分の生活に役に立つのかということが住民の皆さんに伝えきれていないようなところがあります。実際に我々も試験的に最寄の停留所から乗ってみる試みもしました。その際には、きっちり定刻を守って走ってくれていました。PRの仕方というのは本当に難しいとは思いますが、色々な会などにおいて、デマンドバスの現状をお伝えしたりとか。今後、この公共システムというのを維持していく必要がありますので、利用者の皆さんが自分達の生活を手助けしてくれる交通手段であるということ認識していただけて積極的に利用してもらおうということが一番だと思います。こういったところをしっかりとPRしていきたいと思っております。

(田中委員)

方法は。広報へ載せるとか。

(事務局)

そうですね。あるいは会議等、例えば自治会さんの会議等でもバスが走っているという我々からお伝えするとか。今までは市の広報誌へ載せることが多かったんですけれども、繰り返しそういうことをしていきたいなという風に思っております。

(田中委員)

自治会としてはとにかく回覧版でもなんでも協力をします。ポイントサービスや配布物であるとか。やはりあまり認識度が少ないと思うので。

(成川議長)

乗っている人は分かっているんですけどね。案外知らないと思います。ありがたいお話なので、是非ご協力いただきたいと思います。やはり広報も大事です。さっき会議と言っていたけれども、実際になにかで乗っていただく仕掛けというのが必要かもしれないですね。一番大事なのは口コミですから。他にございませんか。色んな意見はあとでいただくとして、一応この評価を審議いただければということなので、この事業評価について他にご意見ございませんか。

(高垣委員)

最後にお礼も兼ねてしゃべらせていただこうかと思っていたのですが。今、自治会さ

んからもPR方法という話の中で、我々も運行事業者として頑張らないかなと思うのが、有田市でイベントのある時、例えば日曜日か土曜日に臨時で走らせてもらって、実は平日こうやって走っているんだというようなPRできたらなど。PRと今おっしゃられていたので、バスをみてもらって、中にチラシを置いておいて、イベントの時に市役所とどこかの送迎とかさせてもらえたら面白いなど。

(成川議長)

臨時運行ですね。絶対良いと思いますよ。PR効果あると思います。特にイベントの場所にもよるけれども必ずそういう仕掛けがあると思うので。

(高垣委員)

あとは、病院というのは今までの病院もあるし、新たに医院さんができたりしていると思うので、新しくできた病院だったらこの人が乗ってもらえとか、乗降調査もやっているんですけれども、より一層、事務局がおっしゃたように、高齢者の方に便利という観点で一回考えていきたいなど。今、バスの色んな事故が起こっている中で、バス協会さんの認定ということで貸切バスの方では日本では最高の三ツ星クラスの認定を頂戴しております。それに準じてこういういわゆるコミュニティバス、路線バスの乗務員も一緒のように研修し、また、ヒヤリハット事故の起こらないように日々努力させていただいております。当たり前なんですけれども、事故の起こらないように気をつけておりますので、より一層、安心・安全でご利用していただけますということで、どうぞよろしくお願いいたします。

(成川議長)

ありがとうございます。そうですね、今話題になっていますけれども。

(高垣委員)

はい、本当に恐ろしい話です。

(成川議長)

どうですか、他にございませんか。また、色んな角度からご意見いただくとして、事業評価、議案第3号については原案のとおり承認することとしてご異議ございませんか。

(異議なしの声)

(成川議長)

ご異議がないということですので、議案第3号「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について」は原案のとおり承認されました。

続きまして、議案第4号と議案第5号については、一括議題とさせていただきます。

それでは、議案第4号「平成28年度事業計画(案)の承認について」、議案第5号「平成28年度予算(案)の承認について」を一括して、事務局より説明願います。

(事務局説明)

資料5頁をお開きください。議案第4号「平成28年度事業計画(案)」ですが、大きな方向性としましては、例年どおりに事業を実施していくということに変わりございません。今年度と同様に継続してバスの運行を行うとともに、先ほどの事業評価を踏まえた取り組みを行い、住民の公共交通の利便性等に対する満足度が向上するように努めていきたいと思っております。先ほど説明しました地域公共交通確保維持改善事業の実施については、運行に関する実施主体は運行事業者となり、ルート・ダイヤ・運賃等の検討及び周知広報等については運行事業者と地域公共交通会議が協力して実施することになります。一枚おめくりください。

続きまして議案第5号「平成28年度予算(案)」を説明いたします。

まず、歳入の部ですが、負担金として、有田市からの負担金は74,000円で前年度と同額です。諸収入の雑入として、広告料収入等で300,000円です。これは、26年度の決算額を参考に見込んでおります。従いまして、歳入につきましては合計374,000円となります。次に、歳出の部ですが、運営費として会議費が72,000円、事務費が2,000円でそれぞれ前年度と同額を見込み、運営費が合計74,000円となります。負担金300,000円は、先ほどの広告料収入等を負担金として運行事業者へお支払いするものです。従いまして、歳出合計は歳入と同額の374,000円となります。以上です。

(成川議長)

説明が終わりましたので、ご意見、ご質問よろしくお願ひします。なにかございせんか。特にないようでしたら、議案第4号及び議案第5号については、原案のとおり承認することにご異議はございせんでしょうか。

(異議なしの声)

(成川議長)

ありがとうございます。

それでは、議案第4号「平成28年度事業計画(案)」、議案第5号「平成28年度予算(案)」は原案のとおり承認されました。これで、一応三つの議案は終了したんですけれども、年に2回開くんですよね、この会議は。せっかくの機会なので。それと委員の皆さんで交替した人はいないんですか。同じメンバーなんですか。

(事務局)

はい、それぞれ役職についていただいている方で。第1回と同じです。

(成川議長)

出席者名簿がありますので、ご参照いただけたらと思ひます。

一応、スムーズに議案が終わったんですけれども先ほどから、こういう制度をつくっ



てやっていき、発展させていかなければいけないので、色んな角度からご質問も含めて、ご意見いただけたらと思いますので、よろしくお願ひします。例えば、コース変更なんかがあったけれども、病院、それからお買ひ物、まちの形態も変わっていきますので、コースの点検とか、色んな地域からのご要望もあるかもしれませんし、そういうことがありましたらよろしくお願ひします。

(廣瀬委員)

全体的な数値が6%減っているというのは、すごく気になっていまして。というのが、このバスの運行経費というのは国の方で補助金は年々減少傾向にありまして、今度の新年度につきましても、地域創生の関係もありまして、どちらかという自治体への交付金の方へ持っていられる分、補助の額が減るというのがありますので、これからも増えるというのは望めないというのがあります。その中で利用者がどんどん減っていくというのはこれからの将来の維持、もうちょっと前向きに考えていかないと手遅れになってしまうんじゃないかなという気がします。この6%というのはすごく大きい数字です。

(成川議長)

昨年と同じことを言ってくれてると思います。

(廣瀬委員)

ちょっと大きいですよ。6%というのは。

(成川議長)

ちなみに前々年度からも落ちは。伸びてないですよ。

(事務局)

そうですね、まず日曜日の運行をやめたというところで落ちているというところはあります。今後の見込みは、高齢者の方というのは、有田市では当分のあいだ増えていくという状況です。そういった方に周知をしてこの公共交通を利用していただくことが重要なのかなという風に思っております。この認知度を上げていくために先ほどPRというお話もあったのですが、実際に運行いただいている中紀バスさんの方とご相談もさせていただきたいなと思っている中に、バス停をもう少し分かりやすくしてみてもどうかと思っております。というのも、利用者の方からそういうご要望もございます。昔のバス停を利用できる場所は利用したり、表示をしているというのがあるんですけども、それが明確にできていないようなバス停もあります。その辺のところをお話をさせていただきながら、設置や認知できるかたちにしていただいて、この時間にバスがここに来るのだということを知ってもらおうというようなPRをすることで乗車率にも影響が出てくるのかなという風に思っております。

(成川議長)

できるだけ若い人にも利用してもらいたいんですけども、だいたい高齢の方が多いので、場所によっては待っているのが大変なんですよ。なにかそういう座ったりできるようなところがあったらいいですけどね。

(事務局)

そうですね。イスがあったりとか、昔でいうと雨をしのげるような。都会へいけばバス停というがそのようなかたちになっているのが一般的だと思うんですけども。どうしても道端というか、バス専用の道路も確保できない中で、道路上に停車して乗車いただくというものがありますので。

(成川議長)

乗っていただいた方にアンケートなどは。

(事務局)

26年度に実施いたしました。第1回目の会議でも少し触れさせていただいたんですけども、概ねやはり高齢者の方が乗っておられるのが多くてというのが現状であります。

(成川議長)

なにかご要望とかそういったものはないのですかね。

(事務局)

そうですね。個別のところではいいますと、ご高齢の方なので、家の前まで来てほしいとかですね。わりと個別なところがアンケートでは目立ちました。

(成川議長)

利用される方のご意見というのは本当に大事だと思いますので、そういうのも含めて色々な事を検討して、より良いデマンドバスになるようお願いします。

(鈴木委員)

よろしいですか。やはりこの数字は心配なところがあるんですけども、AコースとBコースの二つの数字の変動が非常に大きいのと、それから、その辺の要因にコース変更というのがあるということなので、対前年度比較というのは非常にその変動分析がしづらいと思うんですね。ただ、トータルが減っているのは事実ですのでそこはいえるということがあるんですけども、ただそれにしても、コース変更した結果、周知不足で減っているのか、本当に果たしてそもそもコースがニーズに合っているのかそれさえよく分からない結果だと思います。ですので、この辺りはもちろん経過を見ていくという方法もありますし、今アンケート調査をされた、これからもやっていかれるという計画になっているんですけども、やはりそういうのを細かく拾っていかないと何が正しいのかみえてこないと思います。今回あまりにも数字が動いているので、何かつかみどころがないですから。今、持続可能なというのがキーワードとしてついておりますので、やはり利用者数が上がらないとなかなか長続きしないと思います。その辺りは丁寧にですね、状況がどうなのかというのを掴んでいただいた上で、あまりころころ変えるというの、というのはあるんでしょうけれど、その一方で、効率悪く走り続けるのはよろしくないと思いますので。是非ともそういうことは積極的に取り組んでいただくことが、ひいては長続きするコミュニティバスにつながっていくと思いますので、是非とも積極的にお願いします。

(成川議長)

今年もアンケートはやるのですか。

(事務局)

今年度はやっていません。

(成川議長)

できたら毎年、コースも変更したことですし、あまりご負担にならないような感じで利用者の声や意見に耳を傾けるという姿勢というのは大事だと思います。アンケート調査、利用者のご意見を聞くという姿勢の問題でもあるので、皆でこうやって育てていかなければいけない制度なので是非実施していただきたい。それから色々変化していくので、担当にはずっと追跡調査をして、検証してやっぱりこういうことなんだということをつきとめる、そしてどうしていくかという対策、そういう努力をお願いしたいなと思います。他にございませんか。中紀バスさんにかございませんか。

(高垣委員)

やはりこのデマンド維持ができるように、また半永久的に走らせていきたいので、皆様方と自治会さんのニーズも把握していきたいです。それから、やはりこれからみかん狩りなどの観光と組み合わせて考えていけたらと思います。私は普段東京にいますが、有田みかんがこちらの倍くらいの値段で売っていたりします。やはり皆、有田と言ったら有田みかんだと。そして、どうやって行ったらいいのかとよく聞かれます。その時に駅から降りたらデマンドバスがあるというように観光と組み合わせたものを考えていけたらと思っています。

(成川議長)

ありがとうございます。中紀バスさんもアイデアを持って、安全に運行してくれているので、また色々事務局ともご相談させていただいてより良いデマンドバスにするように皆で力を合わせて。

(高垣委員)

はい。皆さんからのご指導、どうぞよろしくお願いします。

(成川議長)

それでは、これで地域公共交通会議を終了させていただきます。皆様お忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

## 5. 閉会